

第 1 ・ 2 学年 音楽科

1 学年の目標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 楽しく音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

2 内容及び内容の取扱い

A 表 現	歌 唱	<p>ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。</p> <p>イ 曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。</p> <p>ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする技能</p> <p>(イ) 自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能</p> <p>(ウ) 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能</p> <p>〔歌唱教材〕…共通教材（4曲全て）を含めて斉唱及び輪唱で歌う曲</p> <p>〔共通教材〕…第1学年 「うみ」（文部省唱歌） 「かたつむり」（文部省唱歌） 「日のまる」（文部省唱歌） 「ひらいたひらいた」（わらべうた） 第2学年 「かくれんぼ」（文部省唱歌）「春がきた」（文部省唱歌） 「虫の声」（文部省唱歌） 「夕やけこやけ」中村雨紅：作詞 草川信：作曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌唱教材の選択に当たっては、曲の内容や音域が、低学年の児童に適したものであり、児童の実態に応じ、無理なく楽しく表現できるものであること。 ・相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。 ・国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるよう指導すること。
	器 楽	<p>ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いをもつこと。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。</p> <p>(ア) 曲想と音楽の構造との関わり</p> <p>(イ) 楽器の音色と演奏の仕方との関わり</p> <p>ウ 思いに合った表現をするために必要な次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能</p> <p>(イ) 音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能</p> <p>(ウ) 互いの楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能</p> <p>〔器楽教材〕…歌唱で学習した教材や親しみのある器楽曲の旋律に、打楽器などによる簡単なリズム伴奏や平易な低声部を加えた曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽教材の選択に当たっては、主旋律に加えるリズム伴奏が、児童の実態に応じた平易なものであり、曲の雰囲気を感じ取りやすいものを主に取り上げるようにすること。 ・取り上げる打楽器は、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器を含めて、演奏の効果、児童や学校の実態を考慮して選択すること。 ・第1学年及び第2学年で取り上げる旋律楽器は、オルガン、鍵盤ハーモニカなどの中から児童や学校の実態を考慮して選択すること。

A 表 現	<p>ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、(ア)及び(イ)をできるようにすること。</p> <p>(ア) 音遊びを通して、音楽づくりの発想を得ること。</p> <p>(イ) どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつこと。</p> <p>イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くこと。</p> <p>(ア) 声や身の回りの様々な音の特徴</p> <p>(イ) 音やフレーズのつなげ方の特徴</p> <p>ウ 発想を生かした表現や、思いに合った表現にするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能</p> <p>(イ) 音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能</p>
B 鑑 賞	<p>ア 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。</p> <p>イ 曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。</p> <p>〔鑑賞教材〕…ア 我が国及び諸外国のわらべうたや遊びうた、行進曲や踊りの音楽など体を動かすことの快さを感じ取りやすい音楽、日常生活に関連して情景を思い浮かべやすい音楽など、いろいろな種類の曲</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りやすく、親しみやすい曲</p> <p>ウ 楽器の音色や人の声の特徴を捉えやすく親しみやすい、いろいろな演奏形態による曲</p> <p>・鑑賞教材の選択に当たっては、児童が音楽を身近に感じることができる親しみやすい曲を選択し、音楽への興味関心を深めるようにする。</p>
共 通 事 項	<p>「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。</p> <p>イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる身近な音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。</p> <p>・児童の発達段階や指導のねらいに応じて、次の(ア)及び(イ)から適切に選択したり関連付けたりして指導する。</p> <p>(ア) 音楽を特徴付けている要素 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど</p> <p>(イ) 音楽の仕組み 反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など</p> <p>・「音符、休符、記号や用語」については、児童の学習状況を考慮して、音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。</p>

3 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ・音楽表現を楽しむために必要な技能を身に付けたり、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。
思考・判断・表現	<p>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いをもったり、曲や演奏の楽しさを見いだし、音楽を味わって聴いたりしている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>